

旧飯田工業高校施設の利活用に関する長野県の意向及び 知の拠点整備事業の今後の取り組みについて

1 これまでの経過

- ・ 5 / 11 長野県イノベーション推進本部会議で長野県航空機産業振興ビジョンを決定
長野県は地元自治体と連携し、国や J A X A の研究開発施設誘致や新たな実証試験施設等の設置を検討することを記載

※広域連合として県の考え方を受け入れ、地域振興の知の拠点は別に検討することを決定

- ・ 7 / 22 知事・副知事・産業労働部長等による協議
航空機産業を中心に県が積極的に関わり拠点を整備するとともに、全県の多様な産業振興に波及させていく構想について確認し、利用計画が具体化している部分から分割して譲渡していくことを確認
- ・ 7 / 26 長野県知事と飯田市長(広域連合長)が懇談
航空機産業の拠点整備、飯田工業高校の段階的な無償譲渡等について確認

2 長野県の意向内容について

- ・ 平成 28 年度に無償譲渡される施設は、電気科混合棟、機械科棟、体育館棟
 - ・ 無償譲渡の条件
 - ①長野県全体の航空機産業等の振興に活用されること
 - ②長野県航空機産業振興ビジョンに基づき、試験、研究、人材育成等に資する用途に活用されること
 - ・ 長野県と広域連合他が運営協議会(仮称)を設置し、課題の解決に向けて協議する。
- ※産業センターが指定管理者として知の拠点内に機能を移転することについて、産業労働部は了解している。

3 知の拠点整備事業の全体概要について

- ・ 概算事業費：1,891 百万円(実施設計：30 百万円 改修整備工事：1,861 百万円)
- ・ 整備工事期間：平成 28 年 10 月～平成 31 年 3 月
- ・ (公財)南信州・飯田産業センターの移転オープンは平成 31 年 4 月を予定する。
- ・ 本事業の実施による市町村負担額は、およそ 11 億 4 千 2 百万円になる見込みである。
- ・ 市町村の負担割合については、現在の(公財)南信州・飯田産業センターへの負担金の負担割合で按分するというご理解いただきたい。(この割合で試算すると、飯田市負担額 9 億 2 千 4 百万円、町村負担額 2 億 1 千 8 百万円となる。)
- ・ 今後は、国の緊急経済対策、地方創生推進交付金の追加等の動向に留意し、2 期及び 3 期工事の財源確保に努める。
- ・ 管理混合教室棟については、国や J A X A 等の試験研究施設の誘致を目指す。利用計画が明確になった時点で、長野県と協議する。
- ・ 施設改修整備工事の概要については別紙 1 のとおり
- ・ 施設譲渡後の施設管理に要する費用について予算措置が必要 別紙 2

4 今後の手続きについて

- ・ 県に対して施設譲渡申請書を提出し、9 月中に施設譲渡契約を締結

旧飯田工業高校施設改修整備工事の概要について

○ 1 期工事

* 工期：平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月

* 概査事業費：298 百万円 財源：地方創生加速化交付金（10／10）

* 整備工事内容

改修整備工事内容	改修後の用途
・電気科混合棟 教室内部改修、エレベーター設置、空調設備、トイレ、外壁、屋根改修 ・機械科棟 防災、高圧受変電設備、事務室改修 ・体育館棟 1 F 氷結機器設置個所改修	・電気科混合棟 1 F：共創の場 2 F：信大共同研究講座 3 F：信大南信州キャンパス 4 F：産業技術大学ほか教室

○ 2 期工事

* 工期：平成 29 年 9 月～平成 31 年 3 月

* 概査事業費：1,432 百万円 財源：地方債（充当率 90％、交付税措置 30％）

* 整備工事内容

改修整備工事内容	改修後の用途
・支障となる施設の除却 ・機械科棟改修 ・特別教室棟改修 ・体育館棟 1 F 改修 ・体育館棟 2 F 改修	・機械科棟：展示体験、売店等機能 産業センター機能 国県研究機関等 ・特別教室棟：産業センター機能 ・体育館棟 1 F：公設試験場機能 ・体育館棟 2 F：ホール機能

○ 3 期工事

* 工期：平成 30 年 9 月～平成 31 年 3 月

* 概査事業費：131 百万円 財源：地方債（充当率 90％、交付税措置 30％）

* 整備工事内容：構内道路、排水等外構工事、駐車場整備工事

※地方創生推進交付金に関し、緊急経済対策による追加が検討されている。

今回の対策ではハード整備に交付金が活用できる見込みであり、何とか導入したい。

※この緊急経済対策は、平成 28 年度の補正予算であり、今後国県等との協議の進展により、広域連合及び市町村の補正予算対応等が必要となる。

また、2 期工事の分割や実施時期等の変更が必要になると思われる。

「産業振興の知の拠点」の管理・運営に関する考え方について

1 譲渡される施設の帰属

- ・長野県から譲る受ける施設は、すべて南信州広域連合の財産とする。

2 管理・運営の方法

- ・南信州広域連合は、知の拠点の管理運営のため、(公財)南信州・飯田産業センターを指定管理者に定める。
- ・光熱水費をはじめ施設の管理運営に要する費用は、(公財)南信州・飯田産業センターが負担するものとする。
- ・(公財)南信州・飯田産業センターは、自ら行う収益事業や試験機器等の使用料収入により、施設の管理運営に要する費用を賄うものとする。
- ・信州大学航空機システム共同研究講座をはじめ他の機関が、使用する部分の施設は無償貸与するものとし、光熱水費等維持管理にかかる費用については、それぞれの機関が負担するものとする。
- ・施設の大規模改修等に係る費用は、南信州広域連合が負担するものとする。

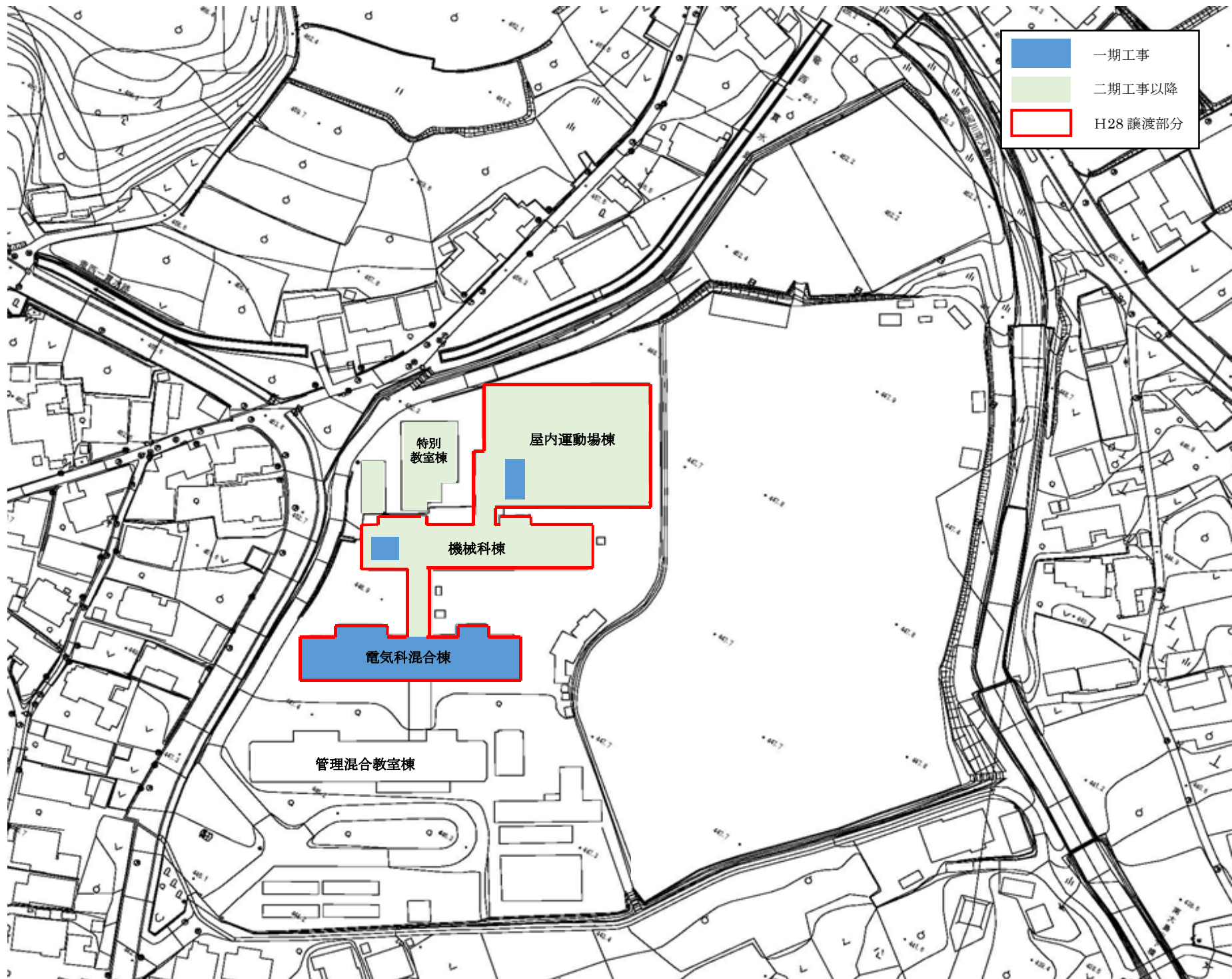
3 当面する施設管理費用等について

※工事期間中 (H28～H29) の施設維持管理は、産業センターに委託する。

- ・施設管理に関する主な費用の項目と負担区分は、次のとおり。

項 目	H28	H29	H30	H31	H32
※施設利用状況等	施設改修工事	施設改修工事 信大共同研究講座		信大共同研究講座 産業センター	
管理運営費 ・修繕料、火災保険 ・施設管理消耗品等	広域連合	広域連合 コンソーシアム		広域連合 産業センター コンソーシアム	
光熱水費 ・電気料金、 ガス、上下水道等		広域連合 コンソーシアム		産業センター コンソーシアム	
施設管理委託料 ・各種保守点検、 清掃業務等	広域連合	広域連合 コンソーシアム		産業センター コンソーシアム	

※具体的な金額は今後精査し、必要に応じて予算措置をする。



旧飯田工業高校 1 F

屋内運動場棟D

着氷試験設備導入

機械科棟A

機械室、電気室改修

電気科混合棟B

トイレ増改築
エレベータ増築
エアコン設置
(室内機・室外機)
電灯設備LED化
内部改修

管理混合教室棟C

《南信州・飯田産業センター》

測定室、機械室、事務室
実証実験設備

通路 兼 荷捌きスペース

チャンパールーム、シールドルーム
電波暗室・測定室

着氷試験設備

通路

EV

AC

EV

通

機械室

電気室

展示・体験コーナー、売店、カフェ

《南信州・飯田産業センター》

仮設入口

WC

EV

エントランス
ホール

風除室

学生談話室

情報発信
スペース

自由空間
コワーキング

《共創の場》

ホール

工事名

旧飯田工業高校後利用

図面名称

改修後1F平面図

縮尺

1/500

作成日

2016.03.05

図面番号

02

旧飯田工業高校 2 F

特別教室棟 E

屋内運動場棟 D

油庫

試作実習

貸スペース

食品企業研究室

ホール

更衣室
準備室

更衣室

玄関

EV

EV

IFへ

機械科棟 A

電灯設備 LED 化
防災盤設置

産業センター
事務所

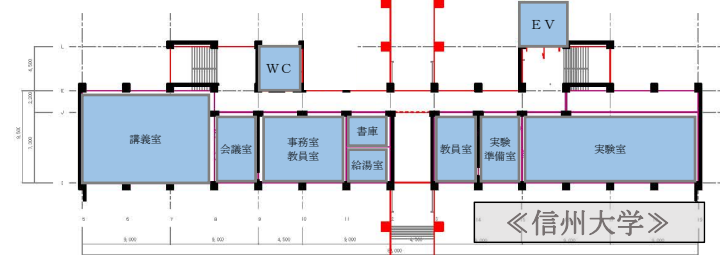
WC

産業センター関連スペース

《南信州・飯田産業センター》

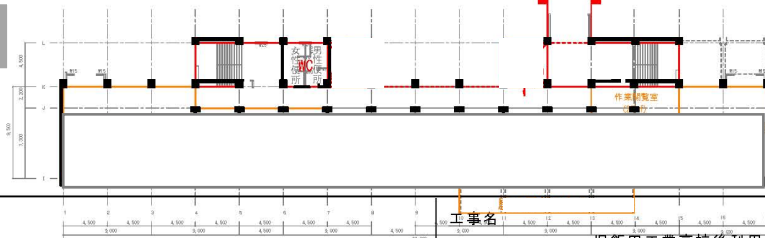
電気科混合棟 B

トイレ改修
電灯設備 LED 化
エアコン設置（室内機）
エレベータ増築
内部改修



《信州大学》

管理混合教室棟 C



工事名
旧飯田工業高校後利用

図面名称
改修後2F平面図

縮尺
1/500

作成日
2016.03.05

図面番号
03

旧飯田工業高校 3 F

屋内運動場棟D

特別教室棟E

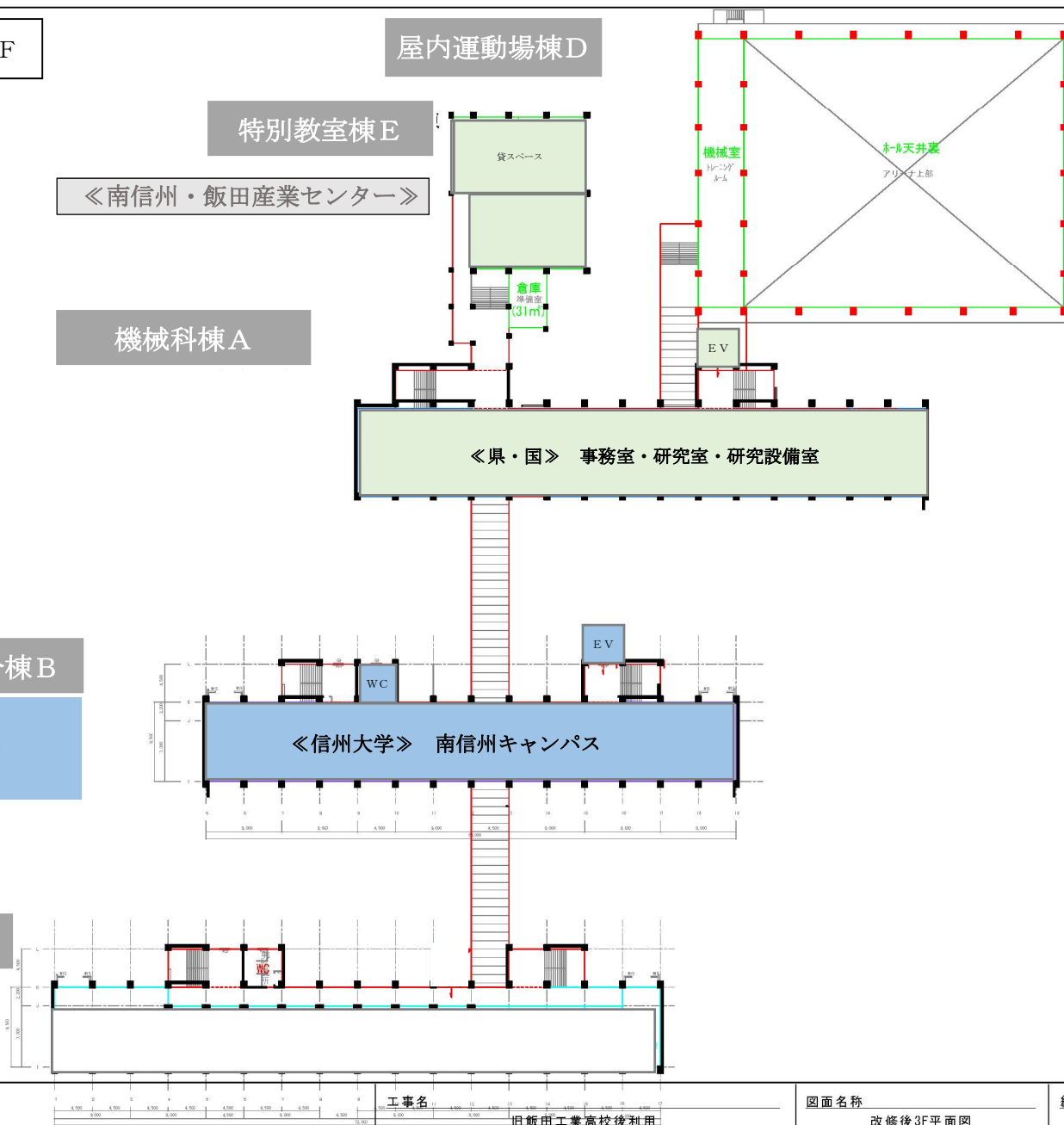
《南信州・飯田産業センター》

機械科棟A

電気科混合棟B

トイレ改修
電灯設備 LED 化
エレベータ増築

管理混合教室棟C



工事名
旧飯田工業高校後利用

図面名称
改修後3F平面図

縮尺
1/500

作成日
2015.03.05

図面番号
04

旧飯田工業高校 4 F

屋内運動場棟D

特別教室棟E

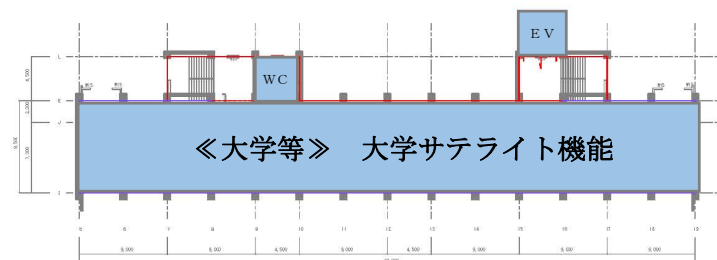
機械科棟A

インキュベート室、団体事務室、企業談話室、経営相談室

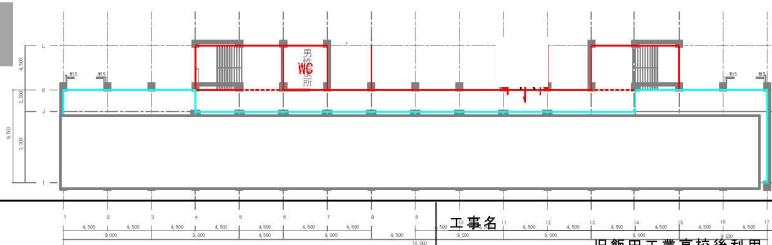
《南信州・飯田産業センター》

電気科混合棟B

トイレ改修
電灯設備 LED 化
エレベータ増築



管理混合教室棟C



工事名
旧飯田工業高校後利用

図面名称
改修後4F平面図

縮尺
1/500

作成日
2016.03.05

図面番号
05

「航空機産業の将来を担う高度人材育成を図るシンポジウム」 概要報告

- 1 日 時 平成28年6月12日(日) 午後2時30分～午後5時25分
- 2 場 所 飯田女子短期大学 講堂
- 3 参加者 来賓登壇者等 20人
 国、県、市町村、広域連合関係者 126人
 一般参加者 374人(内 大学・高校関係 55人 金融機関 77人 県外 14人)
合計参加者数 520人
- 4 内 容 司会進行 佐藤健(信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアム副会長)
 - (1) 開会の辞 信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアム副会長 伊藤喜平
 - (2) 主催者挨拶 信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアム会長 牧野光朗
 - (3) 共催挨拶 信州大学学長 浜田州博様
 - (4) 来賓あいさつ (ア)長野県知事 阿部守一様
 (挨拶の概要)
 - ・航空機ビジョンについては、固定化する必要なし。皆さんで意見を出し合い地域共有のビジョンとなるようにしてほしい。
 - ・航空機産業は、今後、成長が見込まれる。
 - ・精密、電子、情報産業の集積がされているこの地域の強みを生かすという観点からも、産学官の連携によりしっかりタッグを組んで、航空機産業を長野県の産業の柱、成長の柱に据え、飯田下伊那地域を航空機産業、特に航空機システム産業のメッカとなるよう県として取り組んでいきたい。県も本気、知事もやる気である。
 (イ)衆議院議員 宮下一郎様
 (ウ)関東経済産業局地域経済部長 山田正人様
 (エ)長野県議会議員 小池 清様
 - (5) 祝電披露 参議院自民党国会対策委員長 吉田博美様
 - (6) 記念講演 「航空機産業と航空技術の動向と将来展望」
 東京大学大学院教授 鈴木真二様
 - (7) 長野県航空機産業振興ビジョンの概要説明
 長野県産業政策監兼産業労働部長 石原秀樹様
 - (8) 信州大学航空機システム共同研究講座の概要説明
 信州大学工学部学部長 半田志郎様
 信州大学工学部副学部長 佐藤敏郎様
 信州大学工学部特任教授 柳原正明様
 - (9) 閉会の辞 信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアム副会長 萩本範文

* 今後の方向性

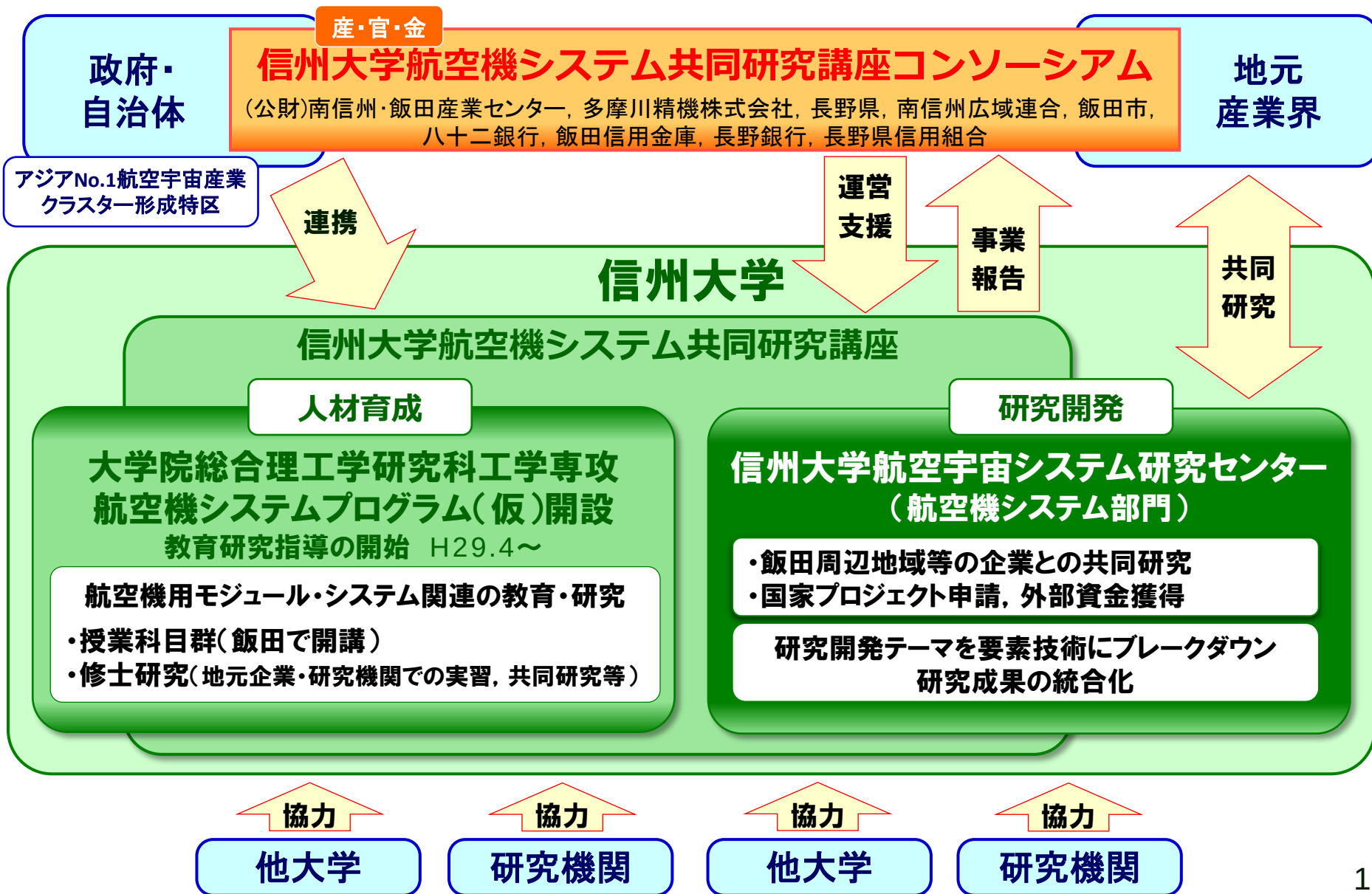
- ・長野県、国、信州大学との連携により航空機産業の振興を図る。そのための人材育成について、知の拠点における航空機システム共同研究講座を開設するとともに、公的試験場としての機能向上により、航空機システム産業のメッカとなることを目指す。また、食品等其他の分野の産業の振興についても進める拠点として知の拠点を整備する。

信州大学 航空機システム共同研究講座 について

H28.7.29

信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアム 役員会

実施体制



年次計画



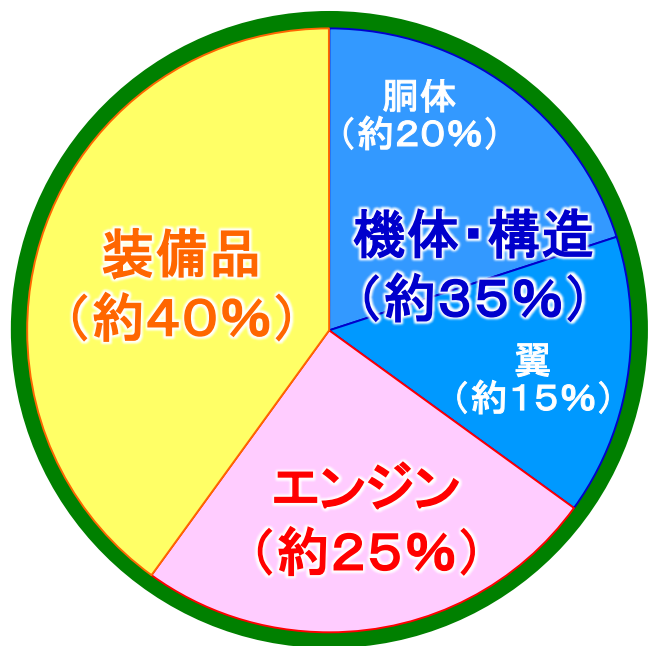
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
教育	航空機システム・装備品事業分野の高度技術者の育成					
	飯田市で実施 特別の課程 「電気機器関連制御技術」 スキルアップコース(実施中)	再編	飯田サテライトキャンパスを利用した社会人対象講座 特別の課程(短期プログラム:1年) スキルアップコースプログラムの実施			
	信州大学航空機システム共同研究講座 コンソーシアム設立 拠点整備		飯田サテライトキャンパスを利用した学部4年生の卒業研究指導			
			修士課程(2年) 総合理工学研究科工学専攻 航空機システムプログラム(仮)の実施			
			飯田サテライトキャンパスを利用した博士課程学生の教育・研究			
研究	南信州圏域全体での航空機産業開発拠点の形成					
	信州飯田地域企業との共同研究, 国家プロジェクトへの参画					
地域連携	連携市町村・関連企業・研究機関とのネットワークの強化					
	共同セミナー・ワークショップ・シンポジウム等の開催					

講座における研究テーマ (1/3)

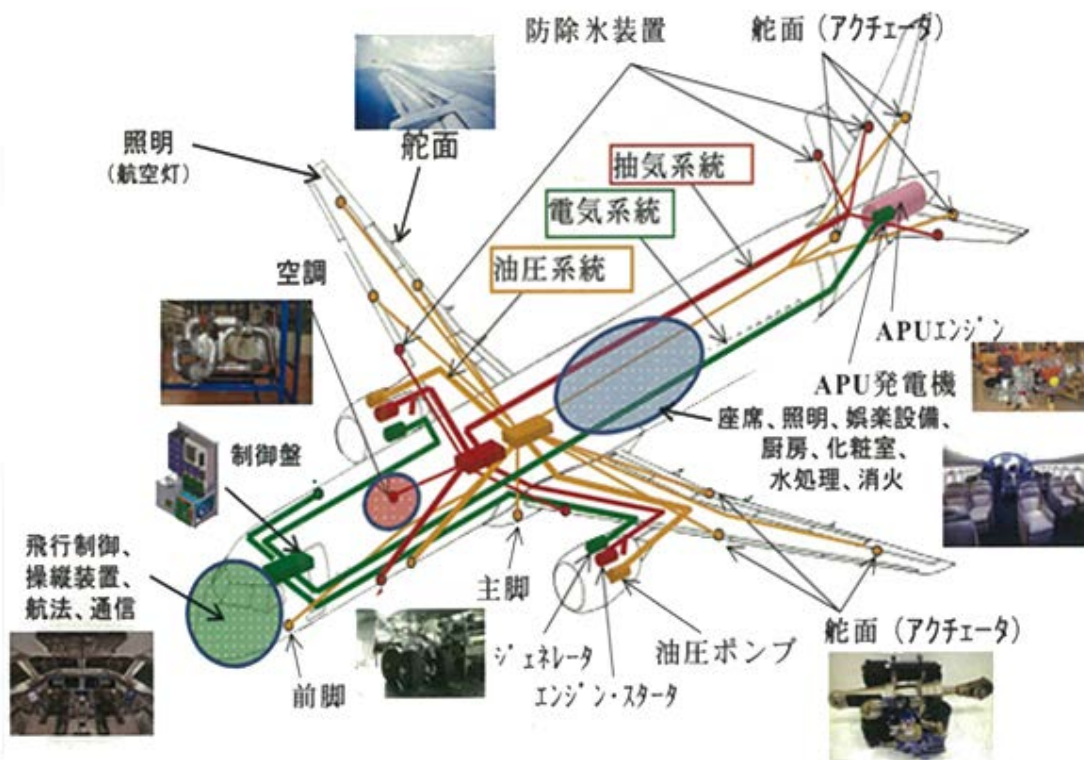


● 多摩川精機(株)等と連携, 装備品システムの開発に参画

- 航空機の構成部品の40%を占める装備品システム(油圧系統, 空気圧系統, 酸素系統, 空調・与圧系統, 防除氷系統, 防火系統, 燃料系統, 補助動力装置系統など)の開発に参画, 信州大学の有する先進的な技術を提供することにより, 付加価値を向上.



航空機の価格配分



航空機の装備品システム

講座における研究テーマ (2/3)



● 実機飛行を通じた航空実践教育の展開（宇宙航空科学技術推進委託費）

次世代の航空科学技術を担う人材育成につなげることを目的とし、全国の大学、産業界が連携、自治体等の協力も得て、実機飛行による実践教育及びそれにつながる啓発教育プログラムを展開

主管実施機関		予算			
共同参画機関	名古屋大学	FY28	FY29	FY30	総額
		14,950千円	14,560千円	14,560千円	44,070千円

実施内容

① 実機飛行教育（全国の大学生対象）

実機飛行を大学教育に活用するためのカリキュラム・教材を作成(FY28), 実施(FY29,30)



② フライト教育・ミニ実験（各大学）

実機飛行の予備教育のための教育カリキュラムを整備，小規模での飛行実験等を実施



③ アウトリーチ活動（中高生対象）

中高生及び保護者に対し，進路選択の動機を高めることを目的とし，産官学が連携，見学会，体験会，講演会等を各地で実施



講座における研究テーマ (3/3)



● JAXAとの連携

- D-SEND等, JAXA飛行実験プロジェクトのデータ解析



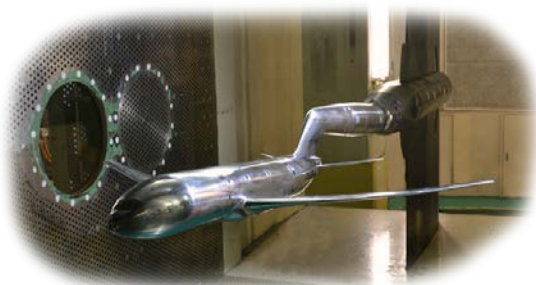
D-SEND #2

ALFLEX

HSFD Phase I

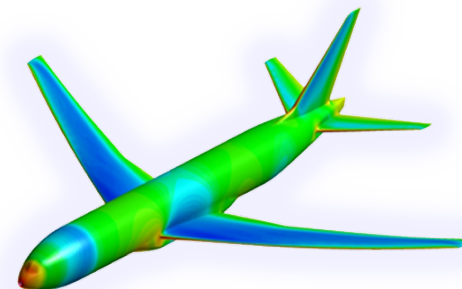
HSFD Phase II

- 「飛翔」の飛行実験データによる空力特性推定



飛行試験データから
空力特性推定

風洞試験・CFDと比較



「知の拠点」形成に向けた考え方（素案）

平成 28 年 8 月 29 日 飯田市議会全員協議会資料 No.1-4

